

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1406
施設名	東野川保育園みんなの家
施設所在地	東京都狛江市東野川4-9-7
法人名	社会福祉法人純生喜伯会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

不思議 (バランス感覚を楽しむ)

<テーマの設定理由>

登ってみたい！歩いてみたい！という、子どもたちの好奇心や、歩行の確立など一人ひとりの成長が著しい時期に必要な「バランス感覚」を、様々な遊びを楽しみながら更に身につけられるよう「ふしぎ」をテーマにした。

2. 活動スケジュール

0.1歳児クラス 12名 (0歳児…3名、1歳児…9名)

- ・ 8月～9月 月2回 (その後も3月まで継続)
- ・ 運動遊びや、ごっこ遊びなど、様々な遊びとして活動していく。
- ・ 発達や上達に合わせて遊具の向きやコースを変えながら行う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

準備・バランスストーン、マット、フープ

環境の設定

- ・ つままれる環境を作り、安全に取組めるようにする
- ・ 発達や上達をみて遊具の向きや配置を変化できる環境を準備する

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ 保育室にバランスストーンを並べ、子どもたちが自分のペースで取り組めるようにした。
- ・ 安全に配慮しながら、高さ、傾斜の向き、配置等、発達に応じた変化も取り入れ「やってみよう」という気持ちにつながっていけるようにする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・ 「できた！」という喜びや達成感が、「もっとやりたい」と挑戦する気持ちに繋がっていた。
- ・ 子どもたちは、保育者の介助や見守りに安心を得ながら活動の広がりやバランス感覚の高まりが見られた。

※詳細は2枚目以降に記載

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回は“ふしぎ”をテーマに子どもたちの身体の成長(バランス感覚)と合わせて、バランスストーンやマット、フラフープなどを使って、楽しめる活動を進めてきた。カラフルなバランスストーンや大きなマットが目の前に現れると、『なんだろう～』と不思議そうに見つめる様子や、わくわくしている表情など、様々な姿があり、チャレンジしていくうちに、もっともっと！と、やる気満々で繰り返し遊びを楽しむ子どもたちからは、徐々に保育士の手を借りずに「自分でやりたい！」気持ちが感じられた。今後も、子どもたちの“やりたい”をこれからもたくさん経験していける活動を行っていきたいと思う。

*映像や写真を見ながら全職員で活動研究を共有し、保護者様には降園時に会話や掲示、クラスだより等で報告。子どもたちの活動内容や楽しむ様子をお伝えしました。

とうきょうすくわくプログラム 活動報告

東野川保育園みんなの家 ちゃーりっぷ組0・1歳児(12名)

テーマ

ふしぎ

子どもたちがいつも過ごしている保育室で、登ってみたい！歩いてみたい！という、子どもたちの好奇心や、ヨチヨチやスタスタなど、ひとりひとりの成長が著しいこの時期に必要な「バランス」をテーマ“ふしぎ”の観点から遊びを通して学んでみました。

① ゆらゆら！

用意したもの：バランスストーン

《8月》

保育室にバランスストーンを並べると、「なにになに？これなあに～？」と興味津々な様子の子どもたち。「こうやって遊ぶのよ」と保育士が見本をみせると、“やってみた～い！”という声や、拍手で気持ちをアピールしてくれました。



片足をそーっと乗せてみたよ！もう片方も乗せてみよう！！おとととと～。落ちちゃった。そうだ！せんせいと手をつないでみよう！そーっと、そーっと。1、2、1、2

最初はチョンとつま先をつけてみたり、手をついてから足を乗せようとしてみたりと、とても慎重な様子の子どもたちでしたが、慣れてくるとトントントン♪とリズムよく渡れるようになる姿が見られました。揺れる身体を足裏足の指でしっかりと踏みしめ、両手でバランスを取っているのがわかります。



できた、できた～！
がんばれ、がんばれ～！！
すごいすごい～！

雨の日は、室内でバランスストーンを並べて、川渡りごっこやコースに変化をつけるなどして、遊びながらチャレンジしていきます。



② おっ とっ と !

用意したもの:フープ、マット

《9月》
マットとフープをドッキングして、這い這いで進んでみたり、ゆらゆら揺らしてみたり、乗り物に見立ててみんなで乗ってみたりして遊んでみました。



せんせいのところまでいってみよう！
ちょっと、こわいかも…
できるよ、できる～♪



おとととと～！わあー、ゆらゆらする～！
たおれちゃうよ～！



バス！バス！
しゅっぱつしんこう～！
どうぶつえんにいってみよう！
ライオンさんに手をふってみよう～！



動物になって進んだり、電車ごっこをしてみたりしながら遊んでいくと、とても喜んで積極的な姿が見られました。狭い幅を這い這いで進み、フープをくぐるのはむずかしいかな？と思いましたが、高さ気づき、頭や身体をより低くして、自分の体重をしっかり支えていました。



活動を通して

今回は“ふしぎ”をテーマに子どもたちの身体の成長(バランス感覚)と合わせて、バランスストーンやマット、フラフープなどを使って、どのような遊びを取り入れたら楽しめるかな？と試行錯誤しながら進めてきました。カラフルなバランスストーンや大きなマットが目の前に現れると、これはなんだろう～と不思議そうに見つめる様子や、わくわくしている表情など、様々な姿があり、チャレンジしていくうちに、もっともっと！とやる気満々で繰り返し遊びを楽しむ子どもたち。保育士の手を借りずに自分でやりたい！気持ちも見せてくれました。子どもたちの“やりたい”をこれからもたくさん経験していけるようにしていきたいです。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1406
施設名	東野川保育園みんなの家
施設所在地	東京都狛江市東野川4-9-7
法人名	社会福祉法人純生喜伯会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

不思議 (くっつく形、形の変化)

<テーマの設定理由>

ブロック遊びが大好きな2歳児の子どもたちは、幼児クラスがつくる物に憧れるようになった。くっつけ方がかっこよい物ができることに気づき、工夫が始まったことから、形の不思議を探求していきたいと思い設定した。

2. 活動スケジュール

2歳児クラス 10名

- ・12月～2月 月10回以上
- ・1歳児から行っているブロック遊びを、立体的な形や、合体型、可動型等に興味と工夫が広がるよう幼児クラスとの遊びを増やしていく。
- ・年長児の遊び方を見学する、参加する機会をつくり、様々な遊び方に触れていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・井形ブロック、メガブロック、ぬいぐるみ、線路、ボール (5歳児)

環境の設定

- ・十分に遊べる数のブロックを用意し、形を選び、集め、思ったものを作れる環境を用意する。
- ・幼児クラスの遊び方に触れる機会を増やし、後半は特に5歳児クラスの遊び方を見る機会を増やした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・1歳児クラスからブロックに親しみ遊んできたが、人形を乗せる、動物園をつくるなどの遊びが主であった。幼児の作る立体的、可動式、変身するものなどへのあこがれから子どもたちの気づきや探求を広げていく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・井形ブロックの種類と数を増やしたことで子どもたちの興味が増し、形を繋げる、形の変化を楽しむ姿が見られた。得意な児が友だちに作り方を教える姿が増え、「どうやったらできるのかな」と考え取り組む姿が増えた。幼児の作るものにあこがれる姿も増え、交流を多く持ちながら探索を進めていく。

※詳細は2枚目以降に記載

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

ブロックの種類や数を増やしたことでこれまでブロックにあまり興味を示さなかった児も楽しむ姿が増えた。くっつけることでの形の変化や、立体となることで、自立する、動く、ごっこ遊びの道具となるなど、遊びにも展開が見られた。得意な児に教えてもらうことで遊びが広がり、教えた児も嬉しさを感じながら、更に新しい工夫への意欲が見られ、幼児クラスの遊びへの興味に広がっていった。それぞれの探求心が、形の不思議や理解、バランス(重力)の工夫などを身に着けながら遊びと他児との関わりにつながっていた。

*映像や写真を見ながら全職員で活動研究を共有し、保護者様には降園時に会話や掲示、クラスだより等で報告。子どもたちの活動内容や楽しむ様子をお伝えした。

とうきょうすくわくプログラム 活動報告

東野川保育園みんなの家 つくし組 2歳児（10名）

テーマ

ふしぎ

年長児がブロックを使い、様々な形の車や家を作っていました。その姿を見た子どもたちが「どうやって作るの？」と興味を示していました。また、普段の生活の中で、丸や四角などの形にタオルを折ることも好きだったため、形の不思議についてブロックあそびを通して探求できるように設定しました。

活動① どんな形のブロックがあるかな？

用意した物：井形ブロック、大型ブロック

《12月》

これまでもたくさん遊んできたニューブロック。形や色、立体への興味が増した様子から、井形ブロックや大型ブロックの種類を増やし、それぞれにどんなブロックがあるのかみんな確認してみました。また、くっつけて繋げてみるとどんな形になるのか見てみました。

色んな形があるなあ



まるになった！



くっつけたらどんな形になるかな？！



長くなってきた！



様々な形のブロックに「これは丸だね」「これはなんだろう？」など興味津々な様子の子どもたち。繋げると形が変わっていくことも面白さを感じていました。

活動② 好きな物をブロックで作ってみよう！

用意した物：井形ブロック、大型ブロック

色々な形があることを見た後は、実際にブロックを繋げて好きな形を作ってみました。どの形のブロックが繋がり、どんな形に変わっていくのかやってみました。



このブロックはここにくっつくかな…？

車にタイヤの丸いブロックをくっつけるよ！



子どもたちそれぞれが作りたい物を想像して、どんな形のブロックが必要になるか選びながら集中して取り組んでいました。年長さんたちが作っていた車をどうやったら再現できるのか考える姿もありました。

活動③ 年長さんはどんな物を作っているか見てみよう！

用意した物 ニューブロック、線路、ボール

《2月》

つくし組の子どもたちがブロックに興味を持つきっかけとなった、年長組のお兄さん・お姉さんたちが、ブロックを使って車や家の他にどんな物を作っているのか見に行き、一緒に遊びました。



すごい！

ボールが転がってる…！



幼児クラスの保育室に行くと目の前に井形ブロックを使って線路を作っていたお兄さん・お姉さんたち。長いレールを見て「すごいね…」と驚き、高低差の付いた線路をボールが転がるのを見て更に驚き、目を輝かせていました！

年長さんに遊び方を教えてもらいながら、これまでつくし組さんだけでは思いつかなかったブロック遊びを楽しみました。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1406
施設名	東野川保育園みんなの家
施設所在地	東京都狛江市東野川4-9-7
法人名	社会福祉法人純生喜伯会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

不思議 (かたちの不思議・まわると変わる)

<テーマの設定理由>

「三角を2つくっつけると四角になった!」と、図形を組み合わせることのできる違う形に気づき、図形への興味が広がってきたことから、更に図形や模様、回転することで起きる色や形の変化を探究していけるよう設定した。

2. 活動スケジュール

3.4.5歳児クラス 38名 (3歳児…12名、4歳児…13名、5歳児…13名)

- ・7月～3月 月5回以上
- ・4月から積み木遊びやタングラム(パズル)などで形の遊びを楽しみ興味を持つ児が増えてきた
- ・プリズムこまセットを用意し活動を始める(5歳児) 図形や模様づくり、回転での変化を探究
- ・2～3月 5歳児が4歳児に遊び方を伝えていく

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・タングラム(パズル)、プリズムこまセット、テーブル

環境の設定

- ・プリズムこまセットは、5歳児が遊べる数に加え、複数作り模様を比べられるよう多めに用意する。
- ・パーツが小さいため管理には注意し、模様を作るテーブルと、こまを回すスペースを分けて遊べるようにする。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・タングラムパズルや積み木などで構成遊びを楽しみながら図形への興味を広げていく。
- ・プリズムこま出の遊びを通して色、形、模様、回転することでの変化等、いろいろ試してみながら探究していく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・4月より積み木、タングラムパズル他、様々な構成遊びを楽しんできた中で、5歳児の図形への興味が増してきた。
- ・7月、プリズムこまセットを用意すると、子どもたちは目を輝かせ興味を示した。使い方を説明すると、子どもたちはすぐに模様作りに夢中になり、デザインとして楽しむ姿と、回転させた時に見える模様を楽しむ姿が見られた。

※詳細は2枚目以降に記載

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

プリズムこまはパーツが小さく、管理も重要なことから、5歳児のみの使用とした。じっくり取り組める環境での作業を真剣な表情で模様づくりに夢中になる姿が見られた。こまのデザイン(パーツの配置)を楽しむ児や、回した時の模様を重視し、配色と配置を工夫する児など、作ったものを並べ、回し、作り直し(位置調整)をし、回す…など、試行錯誤しながら取り組む姿や、友だちの模様を見て取り入れ試す姿など子どもたちは繰り返し行い、「探究」は続いていた。

卒園を間近の5歳児が4歳児にプリズムこまの使い方を教えてあげることになった。遊び方やコツを丁寧に教える5歳児の表情と、教えてもらう4歳児の真剣な表情も印象的であった。

*映像や写真を見ながら全職員で活動研究を共有し、保護者様には降園時に会話や掲示、クラスだより等で報告。子どもたちの活動内容や楽しむ様子をお伝えした。

とうきょうすくわくプログラム 活動報告

東野川保育園みんなの家 ひまわり組5歳児(13名)

テーマ

ふしぎ

積み木遊びやタングラムのパズル遊びを通して、四角や三角の形を組み合わせる面白さを知り、そこから、図形の組み合わせ方によってできる形や模様について興味関心が広がることをねらいにテーマを設定しました。

①形を組み合わせよう

用意したもの タングラムパズル、積み木、こまセット

《4月》

箱の中にどうやって積み木をきれいに片付けよう…

「この向きにしないとはいらないよ!」「先にこの形をいれるんだよ」「きれいにいれたい!」そんな会話をしながら積み木の形を見ながらくるくる回転させたり、大きさを選んだり…こうすれば入るけど、うまく合わないとしまえない…色々考えることが楽しそうでした



積み木で三角と四角を合わせて「見てー さかな」や「家にしたよー」など図形を合わせて形を作ることも楽しむようになってきました。

《7月》

図形に興味を持ってきた頃、カラフルな小さな三角形をたくさん出してみました。

すると…「わー!!」「これなにー?!」と目を輝かせて集まってきました。



保育者が「この三角形、ケースの中にきれいに入るかな?」と話すと「うん やってみたい!!」「どうしたらいいかな?」と言いながらさっそく三角形とケースを手にしていました。

「三角の向きをかえながらいれるんだ!」「すきまができるとだめだ」「角をきれいにはめないと」気づいたことを教え合いながら、きれいにケースに入ると嬉しそうに見せてくれました。



② 模様を作ろう

用意したもの こまセット

《7月から引き続き》

三角の図形をきれいにケースに入れるには…を工夫していた子どもたち。そして、「あかがいい！」など好きな色を集め始めました。



色を選ぶだけでなく、三角の向きを変え、組み合わせると色々な模様ができることに気が付きました。「こんなかたちにしてみたい！」どんどん夢中になっていきます。

そして…「つくったコマを回してみたらどんな模様になるのかな？」回してみることにしました。

「ワ～ きれい～」「エー!! こんなもよう!!」と驚きと面白い！と感動する子どもたち。次はこれ！次はこう！とアイデアがどんどん出てきていました



《2月、3月》

遊び方を色々工夫した5歳児が、年下の4歳児に遊び方を教え始めました。「へ～ そうか～」と熱心に聞く4歳児たち。4歳児も形を組み合わせる面白さを知り、わくわくして遊び始めました。

活動を通して

図形を組み合わせると色々な形を作ることができるという、子どもたちの気づきから、興味関心が広がりました。取り組む中で「こうしたらどうなるだろう？」「なるほど～」「こうしてみたい」という工夫や試行錯誤を繰り返す、発見したり創造したりする面白さを感じることができました。継続して行う中で、「もっとこうしたい」と考える幅も広がっていきました。そして、興味を持ってきた年下との関わりもみられました。保育者が教えるのではなく、子どもたちの発想や工夫がこれからも広がっていくような活動をしていきたいです。